

気象防災アドバイザー活動事例

1. 自治体スポット任用
2. 自治体任用以外の地域貢献活動

気象防災アドバイザー 玖保 陽子

1. 自治体任用（スポット）事例

広島市「新任防災担当職員研修」における講師
※年度毎1回で現時点で3年連続任用

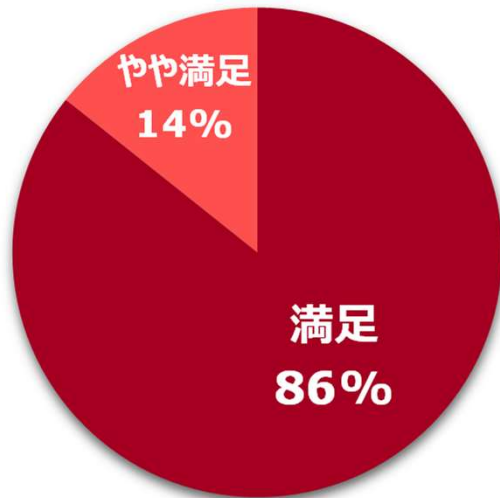
- 部内研修の講師を
気象防災アドバイザーに依頼する初の試み。
 - ✓ 気象防災の専門家の視点により
講義内容の幅が広がることを期待。
- 全2日間のカリキュラムのうち1単元を担当。
 - ✓ 「自然災害発生メカニズム・防災気象情報」
- 受講者のほとんどが防災業務は初めて。
 - ✓ 消防局からの出向の方も数名。

1. 講義内容

- 自然災害とは（外力と人間社会、素因・誘因）
- 土石流、氾濫、地震、津波等の動画・写真
- 土石流、氾濫、地震、津波等のメカニズム
- 広島市の地形・気象の特徴と自然災害特性
- ハザードマップの解釈のポイント
- 避難の考え方、「分散避難」について
- 警戒レベル・気象防災情報の意味と活用
- 気象予測の技術的限界
- 公助の限界、なぜ「自助」が基本なのか

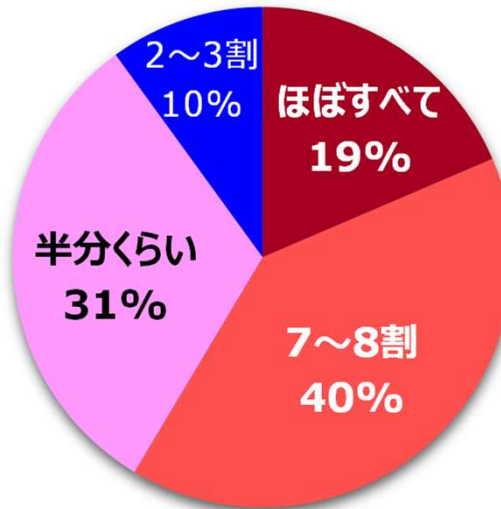
1. 講義の事後アンケート結果 ※ 3 回分合計

どの程度
満足しましたか？



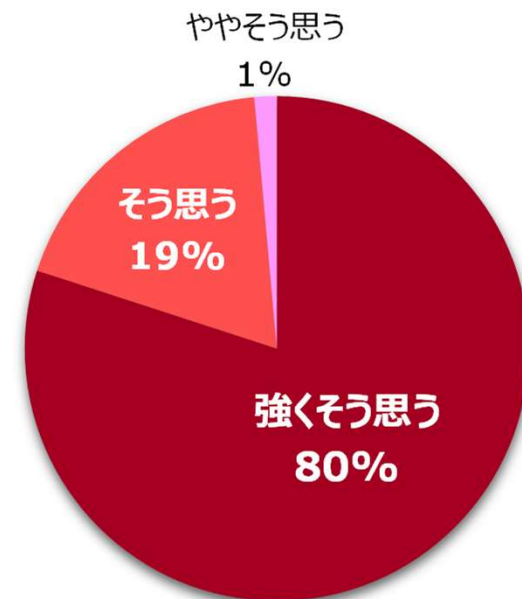
■ 満足 ■ やや満足
■ 普通
■ やや不満 ■ 不満

新たに知ったことは
どのくらい
ありましたか？



■ ほぼすべて ■ 7~8割
■ 半分くらい
■ 2~3割 ■ ほぼなし

今後の業務に
役立つと思いますか？



■ 強くそう思う ■ そう思う
■ ややそう思う
■ それほど思わない ■ まったく思わない

1. 事後アンケート自由記述意見 ※抜粋要約

- 広島市の地形、気象など地域特性に基づく内容が大変参考になった。
- ハザードマップの見方。避難の考え方が勉強になった。
- 知らない言葉を学べた。 ※分散避難、クラッシュ症候群等
- 垂直避難、津波の高さと危険性、などの誤認識を修正できた。
- 防災の答えは一つではない、「空振りを恐れず、見逃しはなく」の理解。
- 防災における自治体と市民の関係、自助を促す重要性が理解できた。
- はじめての防災担当で市民の命、生活を守ることができるのか非常に不安だったが、取り組むべき業務の方向性を明確にできた。
- 講義を参考に、情にうったえるだけでなく根拠をもって市民に説明できそう。
- 市民目線の感覚などの話もあり参考となった。
- 大変わかり易くためになる講義、職員皆きけるようにした方が良い。

2. 地域貢献としての防災支援 ※自治体任用以外

- 自主防災会・町内会等主催の防災講演会講師
- 自主防災会・町内会等の「防災まちあるき」支援
- 有志の防災士団体等の研修講師
- 公民館など公共施設主催の防災講座講師

〈注釈〉

※上記の活動は、気象防災アドバイザー研修受講以前から「気象予報士」「防災士」「広島県自主防災アドバイザー」として実施していた。（2018年第1回受講生）

※「気象防災アドバイザー」としての指名で依頼を受けたことはない。

※気象防災アドバイザー委嘱後、依頼数が明らかに増えた事実はない。